

音楽芸能スタッフ科 P A/音響コース 1年次 受講科目一覧

P A専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	P C 知識 I	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	68	2	4
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
実習	イクイップメント I	68	2	2
演習	スタッフワーク基礎 I	68	2	4
演習	スタッフワーク応用 I	68	2	4
実習	P A 基礎 I	68	2	2
実習	P A 応用 I	68	2	2
講義	業界知識 I	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
①企業に就職するために必要な一般教養としての知識とスキルを身に付ける。 ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。 ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。							
到達目標							
・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け、自身の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようになる。 ・身だしなみや挨拶の仕方、正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールの書き方など、ビジネスマナーの知識を身に着ける。 ・就職活動の際に必要な履歴書及びエントリーシートの作成ができるようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力、自己分析 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 4～7回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ ・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語、自己紹介文作成)
【前期】 8～10回目	・コミュニケーション(グループコンサルティング) ・電話対応(かけ方、受け方、取り次ぎ方)
【前期】 11～13回目	・ビジネスメール ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 14～17回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 18～20回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・企業研究、自己PR、志望動機作成 ・感情のコントロール
【後期】 21～24回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成 ・面接練習(個人、グループディスカッション)
【後期】 25～27回目	・一般常識、SPI対策 ・名刺交換 ・冠婚葬祭マナー
【後期】 28～30回目	・面接対策 ・履歴書写真撮影、メイク ・食事のマナー
【後期】 31～34回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ること、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行きましょう。 また、社会人として必要なビジネスマナーや一般常識も学んでいきます。自分のキャリアを考える一年にしていましょう。
備考	授業ごとに講師が準備した教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 現在はその経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。 ②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。					
到達目標					
・数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、実際に現場で演者が目指すであろう音楽像を様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や技術提供ができる人物になる。 そして音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。					
・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 4～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～10回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 11～13回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 21～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	舞台知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	山口県・福岡県を中心に、音響オペレーターとしてブライダルをはじめ各種イベントや式典などの音響業務を担当。学生時代は電気科に所属、機材の設営を伴う現場では当時学んだ電気の知識を現在の業務に活かし活動。これらの経験を活かし、現場に役立つ知識を教授する。						
授業概要							
音楽・芸能・舞踏その他における、電気・舞台の基本知識と応用を身に付ける。華やかな演者の表舞台を裏から支えるスタッフの重要性を学ぶ。							
到達目標							
・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け、校外現場にも対応し社会人・業界人として活躍出来るよう学習する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	劇場舞台に関しての講義①:社会の中での芸能とホール of の存在意義・日本の公立劇場とホールについて
【前期】 4～7回目	劇場舞台に関しての講義②:欧州のホール of の歴史、構造と文化的背景・ホール、劇場の性能と機能について
【前期】 8～10回目	劇場舞台に関しての講義③:文化芸術政策と劇場ホールについて
【前期】 11～13回目	劇場舞台に関しての講義④:劇場・音楽堂 その設備と運用について
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	電気・電流に関しての講義①:電気とは?・感電の恐怖及び対策について
【後期】 21～24回目	電気・電流に関しての講義②:電気極性・電流・電圧・抵抗／電源計
【後期】 25～27回目	電気・電流に関しての講義③:劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 28～30回目	電気・電流に関しての講義④:劇場舞台照明電源について。
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	舞台やイベントの現場では電気の知識や舞台の仕組みを理解しておくことがとても重要です。特に電気は正しい知識を持っていないと事故やケガにも繋がります。どんな現場でも必要となる知識なので、しっかり勉強しておけば将来必ず役に立ちます。一緒に頑張りましょう。
備考	教材として「舞台技術の共通基礎」を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラル、個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的などの情報リテラシーからWord/Excel/PowerPointなどの基礎的なオフィスソフトの使い方を理解して就職後に必要な最低限の技術を身に付ける。							
到達目標							
・情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解する。 ・情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解する。 ・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権、肖像権等について/スピード検定を使ってキー入力習得・Wordで案内状の作成
【前期】 4～7回目	知的財産権について/Excelの基本を学ぶ
【前期】 8～10回目	デジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 11～13回目	音のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 14～17回目	画像のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【後期】 18～20回目	動画のデジタル化について/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 21～24回目	ネットワークについて/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 25～27回目	TCP/IPについて/HTMLを使ってホームページを作成
【後期】 28～30回目	データの圧縮について/PowerPointを実習する
【後期】 31～34回目	データの暗号化について/PowerPointを実習する
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、ビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。これを使いこなすことは、仕事をする上で欠かせない技能になります。さらに、シンギュラリティを迎える20年後において、コンピュータの基礎基本を学ぶことは、それに順応できる力となります。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択		
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。						
授業概要							
①音と電気の関係性にふれ、実用性について学ぶ。 ②授業内でマイクを使った、セッティング、録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。							
到達目標							
・音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、ダイナミックマイクやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・最終的には、総合的に音響のシステム構造を理解する事を到達目標としている。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音響の基礎用語。音の性質。
【前期】 4～7回目	電気基礎：電圧・電流・抵抗・電力について。
【前期】 8～10回目	電気基礎：並列・直列など、回路と分圧について、ケーブルの種類、特性に関して。
【前期】 11～13回目	デシベルと音圧について。電圧比およびdb計算について。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。
【後期】 21～24回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。
【後期】 25～27回目	パワーアンプ・スピーカーやイコライザーなど各種エフェクターについて。
【後期】 28～30回目	ブロックダイアグラムについて。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解 / 機材操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材全般に関して、専門的知識を知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションでそのシチュエーションに適した機材のセッティングができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 「現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上。				
授業概要					
①クラシック、ジャズ、ブルース、ロックやポップスなど幅広いジャンルの曲を分析し、サウンドにおける特徴を学びます。 ②使用されている楽器や機材、バランスや定位、イコライジングや各種エフェクト効果などについて分析し、楽曲の制作過程における手法及び技術を学びます。 ③楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析できるようになる。					
到達目標					
・音楽史的、音楽理論的な観点の基礎を把握し、身につける。 ・音楽分析の手法とその目的について正しく理解し、生かすことができる。 ・音楽分析を通して楽曲に対する解釈を広げ、受容することができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽分析についての基礎学習 音楽理論的観点からの分析方法の考察・実践
【前期】 4～7回目	西洋音楽における形式の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【前期】 8～10回目	西洋音楽における主題の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【前期】 11～13回目	西洋音楽における旋律の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して試験を行う。
【後期】 18～20回目	西洋音楽における和声の分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 21～24回目	西洋音楽における対位法的な分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 25～27回目	西洋音楽におけるリズムの分析についての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 28～30回目	西洋音楽における楽器法、管弦楽法、ダイナミクス、フィギュラリズムなどについての学習 ポピュラーミュージックへの応用
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代の音楽がどこからきたのか、またどの様に成り立っているのかを西洋音楽の音楽分析の視点から見ていきましょう。音楽への理解がより深まればさまざまな音楽活動の一助となるはずです。
使用教科書	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響システムⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 現在はその経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
PA機材の取り扱い方・音響用語の基礎・PAのシステムの構造を学び、PAの仕組みの基礎を理解する。					
到達目標					
・基本的なPA機材に直接触れ、機材の構造・取り扱い方を学ぶ。 ・PAシステムの基礎を理解し、多様なPA現場にも対応できるよう学んでいく。 ・機材のさまざまに組み合わせ等を理解していく。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	マイク、ケーブル、スピーカー、アンプ等の基本的な名称や取り扱い方法を学び理解していく
【前期】 4～7回目	さまざまな楽器や回線の業界における略称を学ぶ 音響で使う基本的なエフェクターを学ぶ
【前期】 8～10回目	ミキサーの各名称や使い方を学ぶ 会場における各所の名称を理解する
【前期】 11～13回目	学内イベント(Live Week)へ向けたシステムの理解と考察
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記若しくは実技による音響機材への理解度の確認
【後期】 18～20回目	スピーカーの構造や仕組みを学ぶ
【後期】 21～24回目	スピーカーの配置ごとの用途や関係を学ぶ
【後期】 25～27回目	学内イベント(Live Week)へ向けたシステムの構築
【後期】 28～30回目	音響におけるワイヤレスシステムの理解 テスターを用いた電気への理解
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記及び実技による音響機材への理解度の確認
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ほとんどの機材や用語が初めて目にするものですが、この授業で理解度を深め、実技授業や現場での対応力を身につけていきます。
備考	適宜資料を配布

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。現在はその経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのPAスタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。					
到達目標					
・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。				
【前期】 4～7回目	楽器などの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。				
【前期】 8～10回目	4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方、PAオペレートなど。				
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し。				
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。				
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのPAオペレート。				
【後期】 21～24回目	キーボードのセッティングと音だし。音作り。				
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)				
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにセット図作成、見方、PAオペレート、撤収作業など。				
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。				
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。				
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、オペレートや撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。				
備考	適時プリント資料配布				

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。現在はその経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
①音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのPAスタッフとして必要な実技能力を養う。 ②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。					
到達目標					
・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽スタッフとは？音楽スタッフの現状、舞台用語、楽器名称などの基礎知識、楽器の音だし、組立方の基礎。
【前期】 4～7回目	楽器などの立ち位置、ローディー、照明、舞台制作とのコミュニケーションなど。
【前期】 8～10回目	4バンド程度の転換実習、バミリ、電源の取り方、PAオペレートなど。
【前期】 11～13回目	LIVEWEEKに向けての各セクションとの打合せ、STAGE PLOTの読み方、作成、転換実習、音出し。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期試験の復習、2バンドのPAオペレート。
【後期】 21～24回目	キーボードのセッティングと音だし。音作り。
【後期】 25～27回目	実際にトラブルを起こし、対処する。(機材トラブル等)
【後期】 28～30回目	4バンド、ダンスやパフォーマーなどがあるフェスの想定のもとにセット図作成、見方、PAオペレート、撤収作業など。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、オペレートや撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布 スタッフワーク基礎 I で学んだ内容をもとに2コマ目として実施

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	PA基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	専門学校卒業後、音響、楽器リペア専門会社に入社、その後独立。個人機材を所有しライブ、イベント等の仮設音響業務、ライブハウスの音響管理、アーティストに帯同し乗り込みオペレーター業務、楽器メンテナンス、レコーディング業務に携わる。					
授業概要						
・アナログ、デジタル音響卓の操作。 ・外部機器の操作。 ・メインスピーカー、モニタースピーカーのチューニング。						
到達目標						
・音響に関する基本用語をはじめ音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上及びPAスタッフとして自覚の目覚めをを目標とする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アナログミキサーの構造、チャンネルのつまみ1つ1つを理解する。アナログ回路のルーティング、イコライザー、コンプレッサー等の外部機器を結線し音が出るまでの流れを実機で理解する。
【前期】 4～7回目	ハウリングが起きる原理、グラフィックイコライザーを使用時の対応、周波数での音の違いを理解しハウリングポイントへのアプローチ。周波数の暗記。FOHスピーカーのチューニングを実践する。
【前期】 8～10回目	簡易的なバンドセットの仕込み。ケーブルの引き回し、ルーティング、マイキング、プランニングを考える。モニタースピーカーを設置しチューニングを実践する。
【前期】 11～13回目	回線図を理解し、指定された複雑なシステム構築ができるようになる。またチームで考えて構築できるようになる。
【前期】 14～17回目	■前期試験:簡易システムを1人で音が出せる。周波数を20hzから20khzまでを復唱する。小型デジタルミキサーを学ぶ。アナログとデジタルの操作性の違いを学ぶ。アナログ伝送と、デジタル伝送の種類、違い、利便性などを理解する。
【後期】 18～20回目	デジタルミキサーの構造、チャンネルの内部を理解する。デジタルパッチ、ルーティング、イコライザー、コンプレッサー等の機器を内部パッチしアナログとデジタルの音が出るまでの流れの違いを実機で理解する。
【後期】 21～24回目	デジタル伝送Danteを理解し、ステージ上のマイク、スピーカーにパッチを行う。デジタルでのFOHチューニング、モニターチューニングを実践する。
【後期】 25～27回目	Danteを使用し、デジタルミキサーでバーチャルでのバンドMixを行う。Mixする上でデジタルミキサー内の機能をフル活用する。
【後期】 28～30回目	Lakeプロセッサの役割を理解し、Smaartでスピーカーの特性を可視化して、デジタル機器を活用しながらチューニングを行う。
【後期】 31～34回目	■後期試験:チームに分かれて決められた時間内に、指定された仕込み図に沿ってステージ上の仕込み、デジタルミキサーのパッチ、ルーティングをおこなう。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材の基本基礎をしっかりと学習していただきます。前期はアナログ、後期はデジタル。基本を理解し進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用 I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	PA応用 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	専門学校卒業後、音響、楽器リペア専門会社に入社、その後独立。個人機材を所有しライブ、イベント等の仮設音響業務、ライブハウスの音響管理、アーティストに帯同し乗り込みオペレーター業務、楽器メンテナンス、レコーディング業務に携わる。					
授業概要						
・アナログ、デジタル音響卓の操作。 ・外部機器の操作。 ・メインスピーカー、モニタースピーカーのチューニング。						
到達目標						
・音響に関する基本用語をはじめ音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、パワーアンプやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・総合的に音響のシステム構造を理解する事で、オペレート技術の向上及びPAスタッフとして自覚の目覚めをを目標とする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	マイク・D.I.のブランド名、種類、構造、ケーブル等の種類、構造、巻き方を理解する。PAスピーカーの種類、違いを学ぶ。
【前期】 4～7回目	アナログミキサーの構造、チャンネルのつまみ1つ1つを理解する。アナログ回路のルーティング、イコライザー、コンプレッサー等の外部機器を結線し、音が出るまでの流れを実機で理解する。
【前期】 8～10回目	ハウリングが起きる原理、グラフィックイコライザーを使用しでの対応、周波数での音の違いを理解しハウリングポイントへのアプローチ。周波数の暗記。FOHスピーカーのチューニングを実践する。
【前期】 11～13回目	簡易的なバンドセットの仕込み。ケーブルの引き回し、ルーティング、マイキング、プランニングを考える。モニタースピーカーを設置しチューニングを実践する。
【前期】 14～17回目	■前期試験:簡易システムを1人で音が出せる。周波数を20hzから20khzまでを復唱する。小型デジタルミキサーを学ぶ。アナログとデジタルの操作性の違いを学ぶ。アナログ伝送と、デジタル伝送の種類、違い、利便性などを理解する。
【後期】 18～20回目	デジタルミキサーの構造、チャンネルの内部を理解する。デジタルパッチ、ルーティング、イコライザー、コンプレッサー等の機器を内部パッチしアナログとデジタルの音が出るまでの流れの違いを実機で理解する。
【後期】 21～24回目	デジタル伝送Danteを理解し、ステージ上のマイク、スピーカーにパッチを行う。デジタルでのFOHチューニング、モニターチューニングを実践する。
【後期】 25～27回目	Danteを使用し、デジタルミキサーでバーチャルでのバンドMixを行う。Mixする上でデジタルミキサー内の機能をフル活用する。
【後期】 28～30回目	Lakeプロセッサの役割を理解し、Smaartでスピーカーの特性を可視化して、デジタル機器を活用しながらチューニングを行う。
【後期】 31～34回目	■後期試験:チームに分かれて決められた時間内に、指定された仕込み図に沿ってステージ上の仕込み、デジタルミキサーのパッチ、ルーティングをおこなう。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材の基本基礎をしっかりと学習していただきます。前期はアナログ、後期はデジタル。基本を理解し進級しましょう。何事にも好奇心を持って臨んでください。
備考	PA基礎 I の内容を基に2コマ目として実施。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	□	非該当 ■
担当講師 実務経歴						
授業概要						
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。						
到達目標						
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕組について学びます。						
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

音楽芸能スタッフ科 P A/音響コース 1年次 受講科目一覧

PA&レコーディング専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I（前期）	34	2	1
実習	分野別実習 I（後期）	34	2	1
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	P C 知識 I	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	68	2	4
実習	P r o T o o l s 基礎 I	68	2	2
実習	P r o T o o l s 応用 I	68	2	2
実習	P A 基礎 I	68	2	2
実習	P A 応用 I	68	2	2
演習	レコーディング基礎 I	68	2	4
演習	レコーディング応用 I	68	2	4
講義	業界知識 I	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
①企業に就職するために必要な一般教養としての知識とスキルを身に付ける。 ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。 ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。							
到達目標							
・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け、自身の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようになる。 ・身だしなみや挨拶の仕方、正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールの書き方など、ビジネスマナーの知識を身に着ける。 ・就職活動の際に必要な履歴書及びエントリーシートの作成ができるようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・自分の第一印象は？、信頼印象力、自己分析 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 4～7回目	・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ ・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語、自己紹介文作成)
【前期】 8～10回目	・コミュニケーション(グループコンサルティング) ・電話対応(かけ方、受け方、取り次ぎ方)
【前期】 11～13回目	・ビジネスメール ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 14～17回目	■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 18～20回目	・キャリアビジョン(自己分析) ・企業研究、自己PR、志望動機作成 ・感情のコントロール
【後期】 21～24回目	・履歴書作成 ・エントリーシート作成 ・面接練習(個人、グループディスカッション)
【後期】 25～27回目	・一般常識、SPI対策 ・名刺交換 ・冠婚葬祭マナー
【後期】 28～30回目	・面接対策 ・履歴書写真撮影、メイク ・食事のマナー
【後期】 31～34回目	■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ること、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいのかについて考え、自己成長につなげて行きましょう。 また、社会人として必要なビジネスマナーや一般常識も学んでいきます。自分のキャリアを考える一年にしていましょう。
備考	授業ごとに講師が準備した教材を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。 ②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。					
到達目標					
・数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、実際に現場で演者が目指すであろう音楽像を様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や技術提供ができる人物になる。 そして音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。					
・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 4～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～10回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 11～13回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 21～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知ることとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料データを共有

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	電気・舞台知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	舞台知識Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	山口県・福岡県を中心に、音響オペレーターとしてブライダルをはじめ各種イベントや式典などの音響業務を担当。学生時代は電気科に所属、機材の設営を伴う現場では当時学んだ電気の知識を現在の業務に活かし活動。これらの経験を活かし、現場に役立つ知識を教授する。					
授業概要						
音楽・芸能・舞踏その他における、電気・舞台の基本知識と応用を身に付ける。華やかな演者の表舞台を裏から支えるスタッフの重要性を学ぶ。						
到達目標						
・様々な音響照明舞台現場に於ける一般常識やエンターテインメント業界の裏側の一般的な知識を身に付け、校外現場にも対応し社会人・業界人として活躍出来るよう学習する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	劇場舞台に関しての講義①:社会の中での芸能とホールの存在意義・日本の公立劇場とホールについて
【前期】 4～7回目	劇場舞台に関しての講義②:欧州のホールの歴史、構造と文化的背景・ホール、劇場の性能と機能について
【前期】 8～10回目	劇場舞台に関しての講義③:文化芸術政策と劇場ホールについて
【前期】 11～13回目	劇場舞台に関しての講義④:劇場・音楽堂 その設備と運用について
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	電気・電流に関しての講義①:電気とは?・感電の恐怖及び対策について
【後期】 21～24回目	電気・電流に関しての講義②:電気極性・電流・電圧・抵抗／電源計
【後期】 25～27回目	電気・電流に関しての講義③:劇場舞台での電源の取り方。
【後期】 28～30回目	電気・電流に関しての講義④:劇場舞台照明電源について。
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	舞台やイベントの現場では電気の知識や舞台の仕組みを理解しておくことがとても重要です。特に電気は正しい知識を持っていないと事故やケガにも繋がります。どんな現場でも必要となる知識なので、しっかり勉強しておけば将来必ず役に立ちます。一緒に頑張りましょう。
備考	教材として「舞台技術の共通基礎」を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラル、個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的などの情報リテラシーからWord/Excel/PowerPointなどの基礎的なオフィスソフトの使い方を理解して就職後に必要な最低限の技術を身に付ける。					
到達目標					
・情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解する。 ・情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解する。 ・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権、肖像権等について/スピード検定を使ってキー入力を習得・Wordで案内状の作成
【前期】 4～7回目	知的財産権について/Excelの基本を学ぶ
【前期】 8～10回目	デジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 11～13回目	音のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【前期】 14～17回目	画像のデジタル化について/Excelで資料解釈の問題を解く
【後期】 18～20回目	動画のデジタル化について/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 21～24回目	ネットワークについて/情報処理検定試験を使ってExcelの知識を深める
【後期】 25～27回目	TCP/IPについて/HTMLを使ってホームページを作成
【後期】 28～30回目	データの圧縮について/PowerPointを実習する
【後期】 31～34回目	データの暗号化について/PowerPointを実習する
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、ビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。これを使いこなすことは、仕事をする上で欠かせない技能になります。さらに、シンギュラリティを迎える20年後において、コンピュータの基礎基本を学ぶことは、それに順応できる力となります。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。				
授業概要					
①音と電気の関係性にふれ、実用性について学ぶ。 ②授業内でマイクを使った、セッティング、録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。					
到達目標					
・音響に関する基本用語をはじめ、舞台の構造、音の性質や特性などの音に関する基礎知識を習得する。 ・スピーカー、ダイナミックマイクやミキシングコンソールなどの各機材の役割や正しい取り扱い方法及び安全に関する知識を身につけ、安全かつ正しい取り扱いを学び習得する。 ・最終的には、総合的に音響のシステム構造を理解する事を到達目標としている。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音響の基礎用語。音の性質。
【前期】 4～7回目	電気基礎：電圧・電流・抵抗・電力について。
【前期】 8～10回目	電気基礎：並列・直列など、回路と分流について、ケーブルの種類、特性に関して。
【前期】 11～13回目	デシベルと音圧について。電圧比およびdb計算について。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。
【後期】 21～24回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。
【後期】 25～27回目	パワーアンプ・スピーカーやイコライザーなど各種エフェクターについて。
【後期】 28～30回目	ブロックダイアグラムについて
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解 / 機材操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材全般に関して、専門的知識を知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションでそのシチュエーションに適した機材のセッティングができるようになります。
使用教科書	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools基礎 I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	ProTools基礎 I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
①Macの基礎知識および、多くのレコーディングスタジオで導入されているPro Toolsについて学ぶ。 ②Pro Toolsとミキシングコンソールの関係性にふれ、実用性について学ぶ。						
到達目標						
・Macへの知識、Pro Toolsの操作技術及び理解力を高め、基礎知識を身につける。 ・Pro Toolsの操作に関する基礎知識を身につける事によって、Pro Toolsの操作速度の向上及び正確性を目指す。 ・Pro Toolsの応用技術を学ぶ事で、現場に出た後も技術を磨いていける自己研鑽力を身につける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Macの基礎知識、操作方法について。Pro Toolsの概要説明。 Pro Tools新規セッションの作成方法。
【前期】 4～7回目	トラックタイプの説明・ツールの機能について。
【前期】 8～10回目	編集ウィンドウおよびミックスウィンドウでの基本操作。Pro Tools録音における基本操作。 カウンター、メモリーロケートについて。
【前期】 11～13回目	テンポ検出・Pro Toolsでの編集操作について。ショートカットキーの基本操作。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	レコーディングにおけるPro Tools内のセッティング・内部Busの活用方法について。 Pro ToolsのI/O設定、ルーティングについて。
【後期】 21～24回目	ショートカットキーを活用した操作。テイク選択や、ノイズ除去等の編集について。
【後期】 25～27回目	ミキシング実習①【映像作品】
【後期】 28～30回目	ミキシング実習②【バンド】
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場での空気感を学び、就職した後活かせる知識及び技術を身につけます。 また、今後も変化していくであろうレコーディングシーンにも対応出来る柔軟性も育てていきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools応用 I		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	ProTools応用 I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
Pro Toolsを使った録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。 また、ミックスダウンの方法を学び、作品の収録・納品までできる知識を身に着ける。						
到達目標						
・実践を通してPro Toolsの操作技術及び理解力をさらに高める。 ・作品の収録・納品までを自身でできるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Mac及びPro Toolsの基礎知識について振り返り。
【前期】 4～7回目	ミックスダウンの作業について理解を深める。バウンスについて学ぶ。 オーディオデータやビデオデータ等のインポート、エクスポートについて学ぶ。
【前期】 8～10回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【課題曲①】
【前期】 11～13回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【課題曲②】
【前期】 14～17回目	■前期試験: 実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	納品形態に合わせたデータ作成について学ぶ。
【後期】 21～24回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【映像作品】
【後期】 25～27回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習【バンド】 サンプル素材によるコンペティションの実施。
【後期】 28～30回目	マスタリング～納品までの流れを学習し、実際に作品を完成させる。
【後期】 31～34回目	■後期試験: 実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得、習熟具合を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ProTools基礎 I で学んだ内容を基に、実践形式で理解を深めていきます。 現場で即戦力になれる力をつけましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎Ⅰ-β		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA基礎Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA&レコーディング専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスからPAを始めその後、福岡の音響会社に20年在籍後フリーとなり、ライブでのPAや芝居、スポーツ系など幅広い現場でオペレート活動をしている。				
授業概要					
音響オペをするために必要な音響機材の知識を勉強していきます。各スピーカーやマイク、ミキサーの使い方を中心に進めていきます。					
到達目標					
シンプルな音響システムをセッティングする事から始め、モニタースピーカーの設置、ミキサーの使い方、マイクの種類などを把握して様々な音響システムを組むことが出来、各ジャンルに適したオペレートをする事を目指していきます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	様々なスピーカー、ミキサーから音を出してそれぞれの違いや特性などを理解する
【前期】 4～7回目	アナログミキサーやアナログシステムを使っのオペレート。
【前期】 8～10回目	様々なマイク、DIの特性について。 楽器のマイクの立て方やケーブル廻りのセッティング方法を学ぶ。
【前期】 11～13回目	楽器の音作り、チューニング、ハウリングについて。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期内容の復習をして実技試験を実施。
【後期】 18～20回目	モニタースピーカーのシステムの構築、チューニング、音の組み立て方について。
【後期】 21～24回目	デジタルミキサーなどデジタルでのシステムで音作りをしてアナログとの違いについて。
【後期】 25～27回目	デジタルミキサーでの楽器の音作りやモニターの音作りについて。
【後期】 28～30回目	後期ライブウィークに向けて音響プランを考えリハーサルから本番までスムーズに行える様に実習を行う。
【後期】 31～34回目	■後期試験:ライブウィークの反省点を挙げ、その課題を後期試験で確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響オペレートの楽しさと難しさを1番に知って頂きたいです。併せて演奏者の目線とオペレート側の視線も知って貰う1年にしましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用Ⅰ-β		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA応用Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA/音響 PA&レコーディング専攻				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスからPAを始めその後、福岡の音響会社に20年在籍後フリーとなり、ライブでのPAや芝居、スポーツ系など幅広い現場でオペレート活動をしている。				
授業概要					
PAオペレート基礎Ⅰをベースに複雑になった場合を想定して授業を行います。					
到達目標					
シンプルな音響システムをセッティングする事から始め、モニタースピーカーの設置、ミキサーの使い方、マイクの種類などを把握して様々な音響システムを組むことが出来、各ジャンルに適したオペレートをする事を目指していきます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	様々なスピーカー、ミキサーから音を出してそれぞれの違いや特性などを理解する
【前期】 4～7回目	アナログミキサーやアナログシステムを使っのオペレート。
【前期】 8～10回目	様々なマイク、DIの特性について。 楽器のマイクの立て方やケーブル廻りのセッティング方法を学ぶ。
【前期】 11～13回目	楽器の音作り、チューニング、ハウリングについて。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期内容の復習をして実技試験を実施。
【後期】 18～20回目	モニタースピーカーのシステムの構築、チューニング、音の組み立て方について。
【後期】 21～24回目	デジタルミキサーなどデジタルでのシステムで音作りをしてアナログとの違いについて。
【後期】 25～27回目	デジタルミキサーでの楽器の音作りやモニターの音作りについて。
【後期】 28～30回目	後期ライブウィークに向けて音響プランを考えリハーサルから本番までスムーズに行える様に実習を行う。
【後期】 31～34回目	■後期試験:ライブウィークの反省点を挙げ、その課題を後期試験で確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	PAオペレート基礎Ⅰの内容をより深くした内容となりますが基本は音の作り方を楽しんで貰う1年にしましょう。
使用教科書	PA基礎Ⅰの内容を基に2コマ目として実施。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	レコーディング基礎Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからパラス、スタジオ実習に関する実習を行う。						
授業概要							
①レコーディングスタジオ内の全ての機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用できるように学習を進める。 ②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を習得する。							
到達目標							
・レコーディングスタジオ内にある機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用出来る。 ・同じ役割であれば初見の機材でも使用出来る応用力を身に付ける。 ・レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められるようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	スタジオの電源の入れ方から、ケーブルの正しい巻き方(8の字巻き)など基本的な作業を理解する。 レコーディングスタジオ内の主要な機材の役割とレコーディング作業全体の流れを理解する。
【前期】 4～7回目	マイクやコンソール、スピーカーなどスタジオに常設されている機器の役割を理解する。 マイクのマイクスタンドへの取り付け方やケーブルの接続方法、CueBoxなど録音前の準備について理解する。
【前期】 8～10回目	機器間接続の中心となるパッチベイを理解し信号の流れ(ルーティング)を理解する。 レコーディングの内容に合わせた準備から回線チェック、片付けまで一連の作業の流れを理解する。
【前期】 11～13回目	マイク、ラインレベルの信号の取り扱いや、Pro Toolsへの録音時の注意点など。 録音のセッティングにおいて、必要な機材と設置方法を理解する。
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	外部エフェクトやProToolsの内部エフェクトなど使用・接続方法を理解する。
【後期】 21～24回目	機器や流れの理解度を再確認する。 直接聴く音と機材によって録音された音の違いを知る。
【後期】 25～27回目	楽器やアーティストの構成などにより変わってくる事前準備や楽器に対する接続方法の違いを理解する。 様々な楽器についての理解を深める。
【後期】 28～30回目	アーティストを交えたレコーディング実習。 実習での反省点や改善点を確認する。
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識の内、基礎的な部分を実際のスタジオワークを通して学んでいきます。高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習応用Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	レコーディング応用Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 サウンドデザイナー/PA音響 PA&レコーディング専攻						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからパシ、スタジオ実習に関する実習を行う。						
授業概要							
①スタジオ実習基礎Ⅰでの学習と並行し、より実践的な作業を通して応用力を身に着ける。 ②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を習得する。							
到達目標							
・実践的な練習をすることで、時間のロスのない円滑なレコーディング作業を進められるようになる。 ・機材トラブルの対処や、行き詰った際の解決策を考えられる思考力を身に着ける。 ・レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	イントロダクション
【前期】 4～7回目	実践的なレコーディング実習【バンドセッティング、ヴォーカルセッティング】
【前期】 8～10回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【前期】 11～13回目	実践的なレコーディング実習【アフレコ・ナレーション】
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	実践的なレコーディング実習【管楽器・弦楽器アンサンブル】
【後期】 21～24回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 25～27回目	実践的なレコーディング実習【ライブレコーディング】
【後期】 28～30回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。 よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識を基に、ケーススタディを通して応用力を身に着けます。 高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PA音響/サウンドデザイナー/照明/ステージ総合/音楽スタッフ総合/アーティストスタッフ						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。							
到達目標							
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学びます。							
後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。